ふじ伊豆トピックス

FUJIIZU TOPICS

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです

柑橘（かんきつ）サミットでレモン生産拡大協議

新たな特産品としてブランド化目指す

東部地区柑橘委員会と当JAは5月19日、令和5年度柑橘サミットを伊豆の国市で開きました。各産地の生産組織役員や藤沼和明常務（当時）をはじめ当JA役職員ら33人が出席し、本年度の柑橘振興計画などについて協議しました。

当JAブランドミカン「西浦みかん寿太郎」や「ゆら早生」への改植を進めるほか、レモンの栽培面積を拡大する計画を策定。レモンは管内の熱海市が「栽培発祥の地」とされていることから、令和13年度までに栽培面積を20ヘクタールまで拡大し、東部地区の新たな特産品としてブランド化を目指していきます。

生産されたレモンは上位等級品だけでなく、加工用原料など全てを取り扱えるよう販売先や加工品の製品化についても検討を進めていきます。

レモンの生産拡大に向け協力を求める藤沼常務（当時）（奥から4人目）

農林水産業を核として地域ブランド化推進

富士山麓・伊豆半島食の魅力推進協議会設立

会長に就任しあいさつする鈴木組合長（当時）

当JAや漁協、農泊組織、市町、農林事務所など県東部の42団体・行政は5月19日、「富士山麓・伊豆半島食の魅力推進協議会」を設立しました。

設立総会には約60人が出席。協議会会長に当JAの鈴木正三組合長（当時）が選任されました。（現在は梶毅組合長が同会長を引き継いでいます）

本年度は重点事業として、農水省の「農泊・食文化海外発信地域」認定への取り組み、構成員同士の交流、情報発信の強化へ同協議会のウェブページを開設し構成団体の活動発信などに取り組みます。

乳製品の消費拡大で酪農支援！

ファーマーズの買い物客に乳製品無料配布でPR

当JAは、依然厳しい状況が続く酪農を支援しようと、さまざまな取り組みを行っています。

5月15日の「ヨーグルトの日」には、管内3店舗のファーマーズマーケットで買い物客に、当JA管内の牛乳も使用して作るフクロイ乳業の「ふじの国ヨーグルト（3個入りカップ）」合計950個を無料配布しました。ヨーグルトと牛乳を使ったレシピも手渡し、食卓に乳製品が並ぶよう消費を喚起しました。

6月1日の「世界牛乳の日」には、当JA管内のファーマーズマーケット・直売所17店舗で来店客に合計3,000パックの牛乳（200ml入り）を無料配布。店頭に、酪農支援をPRするのぼり旗や畜産業の情勢を伝えるチラシを掲示し、より多くの消費者に酪農や畜産支援を呼びかけました。

動画（YouTube）も作成し牛乳消費をPR
（◀二次元コードから簡単にアクセスできます）

来店客に地元牛乳を配布して酪農支援をPR

ヨーグルトを買い物客へ手渡すJA職員（右の2人）

伊豆市の生産者が多数入賞

静岡県しいたけ生産者大会で品評会表彰式

6月28日に第60回静岡県しいたけ生産者大会が焼津市で開かれました。県品評会の表彰式などが行われ、伊豆市の生産者が多数入賞し、表彰されました。主な賞の入賞者は次の皆さまです。　敬称略

■第72回静岡県乾しいたけ品評会　農林水産大臣賞：朝香　博典（天白冬菇）林野庁長官賞：福室 勝義（茶花冬菇）、朝香 博典（香菇）
静岡県知事賞：小柳出 勝（冬菇）、石井 猛（香信）
■第33回静岡県生しいたけ品評会　林野庁長官賞：水口 正人

農林水産大臣賞の朝香さん（右から2人目）

相談業務で組合員との関係強化

相続セミナー、金融セミナーを8地区で開催

当JAは本年度、相談業務の拡充による、組合員とその家族との関係強化に取り組んでいます。

来年2月にかけて無料の相続セミナーや金融セミナーを管内8地区で開催。6月7日には伊豆の国地区田中支店で相続・遺言セミナーを開き、相続手続きや事例紹介、遺言の必要性などを金融相談課の職員が説明しました。今後も皆さまの参加をお待ちしています。（開催日程は20ページをご覧ください）

金融相談課職員が講師となり支店でセミナー

アイランドルビー初試食会でPR

地場野菜を活用し地域活性化を目指す

あいら伊豆地区営農販売課は6月12日、伊東市のレストラン「ラグーン」にホテルなどの宿泊施設や飲食店関係者を招き、地元特産の調理用トマト「アイランドルビー」を使用した料理の試食会を初開催しました。

生産者や女性部も参加し、中華スープや卵と組み合わせた炒め物、トースト、ゼリーなど8品を提供。会場に設けた商談スペースでは活用に向けて話し合いが行われました。

生産者でレストランオーナーの小林 裕さん(左)が調理ポイントを説明

田中山スイカ”旬”到来

ほ場巡回で生育状況確認

田中山西瓜組合は7月から特産「田中山スイカ」の出荷シーズンを迎えています。甘みに優れ、シャリっとした食感が特長で、8月中旬頃まで出荷予定です。

6月16日には萩原農場主幹の園部通彦さんを講師に、ほ場巡回を実施。生産者やJA職員、種苗会社らが参加し、生育状況を確認しました。

伊賀賢治組合長は「天候を見ながら早めの対策を心掛け、おいしいスイカを届けたい」と話しました。

スイカの生育状況や管理方法を確認

地域農業の発展へ意思統一

賀茂営農技術員会を開催

賀茂営農技術員会が5月26日に開かれ、伊豆太陽営農経済センターや営農課などの職員、賀茂農林事務所、伊豆農業研究センターの担当者34人が参加しました。

営農技術の平準化と産地育成を目的に、各組織が行う事業計画などを確認したほか、当JA営農アドバイザーが品目別振興計画や過去10年間の販売実績を照らした考察を示しました。今後も定期的に開催し、三位一体となって地域農業を盛り上げていきます。

品目別振興計画や研究内容を話し合う参加者

梅の木オーナー制度試験運用

安定した所得確保と商品PR目指す

三島函南地区は、生産者の労力削減や資産創造による所得構造の転換などを目指し、三島市で生産される「塚原梅」のオーナー制度を試験運用しています。

6月10日には、セブン-イレブン・ジャパンの社員とその家族11人を招待し、梅の収穫と梅シロップ作り体験を開きました。企業を対象に展開し、今後、福利厚生としての側面と原料の梅を使った商品や企画を広げていきます。

「塚原梅」の収穫を体験する参加者

センチピードグラスで作業軽減

100㎡に約3分で吹き付け完了

御殿場地区営農課は6月6日、センチピードグラスの実証試験を行い、愛媛県の施工業者(有)だるま製紙所が種子の吹き付け作業を実施しました。

センチピードグラスは芝の一種で、水田の畦畔やのり面などに栽植すると雑草の抑制効果があり、除草作業の省力化に期待が持てます。

同地区営農課職員は「初期投資はかかるが、その後の労力軽減は大きな魅力」と話しました。

畦畔にセンチピードグラスの種子を吹き付ける

女性部「こども食堂」が5周年

“楽しみにしてくれている人たちの期待に応えたい”

女性部富士地区本部が運営する、子どもや地域の方々を対象としたこども食堂「ひまわり」(原田支部)と「たんぽぽ」(富士支部)が6月に5周年を迎えました。

コロナ禍は休止期間もありましたが、地域の方から多くの期待の声を受け弁当販売に形式を変えて活動を続けてきました。9月には当初のビュッフェ形式に戻す予定です。笑顔で会食できる日を部員も地域の方々も楽しみにしています。

「毎月楽しみ」と弁当を受け取る利用者(左)

茶かす堆肥で特産物の栽培試験

地元高校生とJAが連携し地域農業に貢献

静岡県立富岳館高校の生物生命系列の3年生と富士宮地区営農課は本年度、アサヒ飲料が開発・提供した茶かす堆肥を使って、落花生とキャベツの試験栽培に取り組んでいます。

収穫までの過程で適用作物や一般堆肥との収量・生育の違いを調査し、地域農業に生かす実証を進めます。落花生は9月中下旬ごろに収穫、キャベツは9月に植える予定です。

茶かす堆肥をまいた畝に落花生の種をまく生徒たち

「するがの極」栽培記録板を設置

見える化で高品質米生産へ意識高める

なんすん営農経済センターは、本年度から「するがの極」の品質管理と収量向上を目的に、栽培データを記録する栽培記録板を8カ所のほ場に設置しました。

栽培記録板には、面積や田植日などの基本情報から、施肥や防除の日付・使用量などを生産者が記入。管理状況を一目で分かるようにしました。するがの極専門部会の稲村弘義部会長は「設置を機に部会員同士で情報交換し、技術を共有したい」と話しました。

栽培記録板を見ながら栽培状況を確認